平成25年３月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成24年11月７日

上場会社名　　アドアーズ株式会社　　上場取引所　大
コード番号　　４７１２　ＵＲＬ　http://www.adores.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役会長　　（氏名）藤澤　信義
問合せ先責任者　（役職名）常務取締役　　（氏名）恩田　聖敬　　ＴＥＬ　03（5843）8800

四半期報告書提出予定日　　平成24年11月８日　　配当支払開始予定日　　―――
四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　有

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第２四半期の業績（平成24年４月１日～平成24年９月30日）

（１）経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年３月期第２四半期	9,667	△21.3	397	△52.8	370	△52.7	395	△54.8
24年３月期第２四半期	12,276	△2.9	843	46.5	782	67.1	873	371.0

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年３月期第２四半期	3.28	―
24年３月期第２四半期	7.65	―

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年３月期第２四半期	18,717	9,603	51.3	79.67
24年３月期	19,911	9,316	46.8	77.29

（参考）自己資本　　25年３月期第２四半期　　9,603百万円　　24年３月期　　9,316百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年３月期	―	0.00	―	1.00	1.00
25年３月期	―	0.00			
25年３月期（予想）			―	―	―

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無
※平成25年３月期（予想）の期末配当は未定となっております。

３．平成25年３月期の業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△8.5	400	△60.1	300	△67.8	130	△85.9	1.08

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　有

業績予想の修正については、本日（平成24年11月７日）公表の「平成25年3月期第2四半期累計期間及び通期業績予想（非連結）の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　有

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年３月期２Ｑ	124,557,592株	24年３月期	124,557,592株
②　期末自己株式数	25年３月期２Ｑ	4,020,878株	24年３月期	4,019,592株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年３月期２Ｑ	120,536,963株	24年３月期２Ｑ	114,109,428株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続きを実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 1
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 1
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 4
４．四半期財務諸表 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 8
第２四半期累計期間 …… 8
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10
（６）セグメント情報等 …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

当第２四半期累計期間におけるわが国経済は、昨年の東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかな回復基調が見えつつあるものの、欧州債務危機や新興国における経済成長の鈍化、長引く円高の影響等により、本格的な景気回復は不透明な状況で推移しました。一方、個人消費の動向につきまして、震災以前から続く軟調傾向のみならず、震災後の節約志向や先行きへの懸念などから、消費文化のあり方まで変わりつつあります。当社が属するアミューズメント業界におきましても、前述の消費活動の変遷の他、オリンピック開催に伴う在宅志向の高まり、度重なる天候不順の影響などが重なったこともあって、厳しい経営環境が続きました。

これら環境下において新たな「成長」を図るべく、平成24年５月29日付「決算発表資料の追加（役員の異動）に関するお知らせ」のとおり、小野寺宏昭を新社長とした役員の若返りにあわせて、事業セグメント毎に新担当役員を据え、新たな視点での経営・事業推進環境を整えました。また、同日付「アドアーズ株式会社と株式会社ネクストジャパンホールディングスの資本・業務提携の変更に関するお知らせ」ならびに「親会社の異動に関するお知らせ」のとおり、Jトラスト株式会社（大阪証券取引所２部：8508）を親会社に迎えたほか、本社についても、東京都中央区日本橋からJトラストグループ各社が構える東京都港区虎ノ門に移転するなど、新経営体制を最大限に加速しうる新たなグループ体制への移行を進めました。

また、昨年度より注力している財務戦略におきましても、昨年度4,405百万円削減した有利子負債を更に1,407百万円圧縮し、当第２四半期累計期間末時点におきまして有利子負債残高4,363百万円まで圧縮しておりますが、その残高のほとんどにつきましても、６月末時点のリファイナンスにて長期借入へとシフトしており、キャッシュ・フローの安定化、今後数年内での実質的な無借金経営に根差した財務体質の構築・強化を果たしております。

事業戦略面におきましても、主力であるアミューズメント施設運営事業では、プロパー社員から抜擢した新担当役員のもと、改めて「集客」を最重要課題として掲げ、コアファン層への訴求として根強い人気を誇る“メダルファンタジアカップ”、を継続展開した他、ライトユーザーや新規顧客獲得に向けては梅雨時期にあわせた全店イベント“アメ得キャンペーン”や“夏のダブルチャンスキャンペーン”などの全メダルゲーム設置店向けイベントを積極的に展開し、既存顧客・新規顧客双方の集客を図りました。

また、８月～９月にかけて、実に１年９ヵ月ぶりの新店舗として「アドアーズ秋葉原店」（１～２階がゲームフロア、３～10階をカラオケアドアーズ秋葉原店として営業）を開設したほか、業務提携関係にあるＫＣカード株式会社とのレンタルＤＶＤ・ビデオ事業においても、町田地区・藤沢地区にて開設した「レンタル！アドアーズ」の運営受託を開始するなど、守りから攻めへの事業展開を進めております。

さらに、当社の第２の柱である設計・施工事業におきましては、こちらも新担当役員のもと、社内デザイン体制を強化するなど人員体制の更なる充実を図った結果、得意のパチンコホール・飲食店を問わず、全国にまたがった多くの新規顧客からの受注を獲得するに至っております。

一方、復興特需による好調さが後押しした前年同時期と比較した場合、主力のアミューズメント施設の売上が想定以上に伸び悩み、全社売上高につきましては9,667百万円（前年同四半期比2,609百万円減・△21.3%）と減収となりました。

利益面におきましても、上記売上の減少による利益減を補うべく、各事業部の徹底したコスト削減や管理部門においても全社的な合理化策を引き続き推進したものの（販売管理費の前年同四半期比△50百万円）、営業利益につきましては397百万円（同445百万円減・△52.8%）、経常利益370百万円（同412百万円減・△52.7%）と減益となりました。また期間純利益におきましても、第１四半期中に当社保有不動産物件の売却による特別利益を計上したものの、395百万円（同478百万円減・△54.8%）と減益となりました。

なお、この第２四半期までの事業環境ならびに収益状況、そして今後の業界市況や変貌しつつある消費動向をはじめとした外部環境を慎重に見据えた結果、平成24年11月７日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて開示のとおり、平成25年３月期の第２四半期累計期間及び通期業績の見通しを下方修正しております。

セグメント別の業績等の概要については以下のとおりであります。

【アミューズメント施設運営事業】

	平成24年３月期 第２四半期(実績)	平成25年３月期 第２四半期(実績)	前第２四半期比
売上高	9,505百万円	8,295百万円	△12.7%
セグメント利益	1,030百万円	689百万円	△33.1%

当社の主力事業であるアミューズメント施設運営事業におきましては、長引く個人消費マインドの低迷や消費志向の変化に加え、電気料金値上げや増税指針の影響など、顧客単価の回復が望めない状況の中、「集客」を重要課題として取り組んでまいりました。

梅雨時期の「アメ得キャンペーン」、夏休み商戦に合わせた「夏のダブルチャンスキャンペーン」など、新規顧客層が見込めるメダルゲームとプライズゲームを対象としたイベントを継続して実施したほか、更に店頭での賑わいを強化する各種集客施策の実施、更には保有アミューズメントマシンの有効活用を今一度推し進めた結果、新マシンや新プライズ景品におけるヒット作不足、オリンピック等の他余暇産業への一時的流出などがあったものの、集客指標のひとつである既存店の在客前年比の低下トレンドに、一定の歯止めをかけております。

また、リピート顧客の囲い込みに向けては、当社メダル運営の根幹ともいえる「メダル会員サービス」を6年ぶりに大幅に見直し、今後の既存店の最優先課題である新規顧客獲得に向けた集客活動の徹底推進と、既存のお客様の満足度向上に向けた各種イベント展開強化の両面で進めております。

新規出店ではアミューズメント業界の聖地かつ激戦区である秋葉原に、実に１年９ヵ月ぶりの完全な新規アミューズメント施設として「アドアーズ秋葉原店」を８月から９月にかけて開設いたしました。１～２階がプライズ専門フロア、３～10階が秋葉原商圏唯一の“一人カラオケ”を含むカラオケ店舗として開設した同店舗は多くのメディアにも取り上げられ、当初計画を上回る好調なスタートを切っております。この出店の成功は、当社の出店戦略の間口を大きく広げるものであるとともに、既存店強化に向けた複合化のノウハウの蓄積につながるものと確信しております。

一方、昨年度よりはじめましたカプセル自販機の設置・運営事業におきましても、新規顧客への拡販体制も整い、カプセル自販機の設置台数を徐々に伸ばすに至ったほか、グループ企業のひとつである株式会社ブレイクとのコラボレーション景品の開発など、当社独自の景品提供にも着手しておりますが、カプセル自販機一台あたりの平均売上高は当初想定の水準を若干下回ることとなりました。

新規事業での底上げが想定を上回れなかった上、重要商戦時期である夏休みシーズンの既存店舗における集客・顧客単価双方の落込みは想定以上であったこと、更には集客の低下トレンドの一定の下げ止まりは果たせたものの、依然として顧客単価が伸び悩んだ結果、売上高につきましては8,295百万円（前年同四半期比1,210百万円減・前年同四半期比△12.7%）の減収、利益面におきましても全社的な各種コスト削減・合理化策を引き続き実施したものの、その売上高の減少を補うには至らず、セグメント利益689百万円（同341百万円減・同△33.1%）の減益となりました。

●既存店売上前年比推移

4月	5月	6月	7月	8月	9月
93.8%	93.3%	95.3%	92.5%	92.6%	90.7%

親会社であるＪトラスト株式会社のグループ傘下のＫＣカード株式会社との共同事業であるレンタルＤＶＤ・ビデオ事業におきましては、６月より既存レンタル店を譲り受けてリニューアルオープンした、「レンタル！アドアーズ町田店」、「レンタル！アドアーズ藤沢店」の運営を新たに受託し、新規・既存会員からのカード会員化に向けたノウハウの蓄積に取り組んでおります。なお、人員・資材の戦略的な集中をはかるべく、１号店として開設した「レンタル！アドアーズ成増店」については、10月31日をもちまして閉店しております。

【設計・施工事業】

	平成24年３月期 第２四半期(実績)	平成25年３月期 第２四半期(実績)	前第２四半期比
売上高	2,310百万円	944百万円	△59.1%
セグメント利益	105百万円	36百万円	△65.6%

設計・施工事業におきましては、強化した社内デザイン体制を当社の新たな強みとして推しながら、企画・設計から施工までのトータルプロデュースができる提案型営業を積極的に行うことで、昨年同期比で約２倍近い案件数を獲得するに至りました。しかしながら、一部案件の完工が下半期へずれ込んだこともあり、売上高944百万円(前年同四半期比△59.1%)・セグメント利益36百万円(同△65.6%)と減収・減益となりました。

なお、今後の受注拡大・収益確保を目指し、更なる人材面での強化のほか、Jトラストグループと連携した当社独自のスキームの開発、業界専門誌等に向けた積極的な情報発信など、営業体制の更なる強化を図っております。

【不動産事業】

	平成24年３月期 第２四半期(実績)	平成25年３月期 第２四半期(実績)	前第２四半期比
売上高	440百万円	419百万円	△4.8%
セグメント利益	9百万円	8百万円	△7.4%

不動産事業におきましては、閉店店舗と連動したテナントリーシング案件の減少、ならびに一部テナントからの減額要請等、時限的な収益減に対応せざるを得ない状況が続く中、管理不動産物件の入居率は概ね計画通りに維持した他、各種テナントリーシングによる効率的な不動産活用および物件の仲介に注力した結果、売上高は419百万円（前年同四半期比△4.8%）・セグメント利益８百万円（同△7.4%）となりました。なお、当第２四半期累計期間において賃貸用として保有していた不動産のひとつを売却し、特別利益として計上しております。

（２）財政状態に関する定性的情報

①資産・負債及び純資産の状況

当第２四半期末の資産につきましては、前事業年度末に比べて1,193百万円減の18,717百万円となりました。これは主として受取手形・現金及び預金が減少したことによるものであります。

負債につきましては、前事業年度末に比べて1,480百万円減の9,114百万円となりました。これは主として短期借入金の返済及び社債を償還したことによるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べて286百万円増の9,603百万円となりました。これは主として配当金の支払及び四半期純利益の増加による影響であります。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,384百万円の資金の獲得（前年同四半期は3,064百万円の獲得）となりました。これは主として減価償却費の計上及び売上債権の減少による資金の増加によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、348百万円の資金の使用（前年同四半期は1,112百万円の使用）となりました。これは主として有形固定資産の取得等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,711百万円の資金の使用（前年同四半期は1,785百万円の使用）となりました。これは主として短期借入金の返済及び社債の償還によるものであります。

これらの活動の結果、現金及び現金同等物の当第２四半期末残高は1,922百万円（前年同四半期末は3,744百万円）となりました。

（3）業績予想に関する定性的情報

本第２四半期累計期間につきましては、新経営体制のもと、役員人事の刷新、Ｊトラストグループへの参画など、大きな転換期を経て、経営体制・協力企業群の強化による、新たな成長ステージに向けた体制構築を図りました。さらに、財務戦略においても、金融機関からの長期的な支援体制の構築も実現し、先行投資が必要なアミューズメント事業の懸案事項のひとつであるキャッシュ・フローの安定化も図ることができました。

一方、収益面においては、長らく続く個人消費マインドの軟調傾向や、いわゆるヒットマシン・ヒット景品が少ない商品環境などもあって苦戦が続いております。

こうした中、この第２四半期累計期間までの軟調傾向に加え、未だ燻り続けるヨーロッパ圏を中心とした一連の不透明な国際情勢、国内の経済・政局等の不透明感に影響される個人消費動向等を慎重かつ保守的に勘案し、通期の売上高ならびに各利益項目予想については、平成24年11月７日付「平成25年３月期第２四半期累計期間及び通期業績予想（非連結）の修正に関するお知らせ」のとおり、売上高につきましては20,750百万円から20,000百万円と減収予想に修正した上で、営業利益1,005百万円から400百万円、経常利益935百万円から300百万円、当期純利益700百万円から130百万円とそれぞれ減益修正をすることと致しました。

下期につきましては、今一度「基本に忠実」かつ「変化に敏感」な経営・運営のもと、この軟調傾向の払拭に向けた体制作りを目指してまいります。

主力であるアミューズメント施設運営事業では、メダル会員サービスの刷新にはじまる、多面的な「集客」施策の向上に向けた新規顧客層への提案力の強化を図りながら、既存顧客層にとって満足度の高いマシンラインナップの充実、全店規模のイベントの開催を図ってまいります。また、今後広がる顧客層への下地として最も重要視するサービス力の強化に向けては、全店参加型の接客力を競い合うコンテスト開催や、メンテナンス研修などによって遊戯環境を充実させてまいります。

他事業におきましても部門の垣根を越えた連携のもと、新規案件の獲得と収益性の向上を図るとともに、管理部門も含めた全社的な店舗支援体制の構築と合理化策を展開してまいります。これらを礎とした上で、業種を問わず外部有力企業とのアライアンスの強化、ならびにグループ企業との更なるシナジー効果の最大化を図り、継続的な収益拡大を図れる企業に向けてまい進致します。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用に関して、当第２四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期当期純利益に当該実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

４．四半期財務諸表
（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期会計期間 （平成24年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金預金	3,364,571	2,560,460
受取手形・完成工事未収入金等	1,279,767	809,620
未成工事支出金	1,649	180,525
貯蔵品	124,759	141,857
前払費用	477,662	497,547
繰延税金資産	71,362	71,362
その他	172,529	225,757
貸倒引当金	△1,154	△708
流動資産合計	5,491,147	4,486,422
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器	18,466,977	18,941,752
減価償却累計額	△15,380,787	△15,640,307
アミューズメント施設機器（純額）	3,086,190	3,301,444
建物	9,570,006	9,398,931
減価償却累計額	△7,655,781	△7,451,898
建物（純額）	1,914,225	1,947,033
構築物	20,726	20,726
減価償却累計額	△18,636	△18,801
構築物（純額）	2,090	1,924
車両運搬具	1,396	1,396
減価償却累計額	△1,335	△1,356
車両運搬具（純額）	60	39
貸与資産	285,987	216,324
減価償却累計額	△273,741	△208,408
貸与資産（純額）	12,246	7,916
工具器具・備品	716,988	774,344
減価償却累計額	△654,037	△659,449
工具器具・備品（純額）	62,950	114,894
土地	1,306,182	1,136,384
リース資産	987,651	987,651
減価償却累計額	△855,845	△890,948
リース資産（純額）	131,806	96,703
建設仮勘定	15,007	21,244
有形固定資産合計	6,530,758	6,627,586
無形固定資産		
借地権	293,602	293,602
のれん	206,588	175,725
その他	48,506	32,525
無形固定資産合計	548,698	501,853

（単位：千円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期会計期間 （平成24年９月30日）
投資その他の資産		
投資有価証券	32,296	31,489
関係会社株式	143,040	162,886
敷金及び保証金	6,401,701	6,349,915
長期受取手形	275,240	100,340
関係会社出資金	23,089	－
破産更生債権等	120,758	118,414
長期前払費用	32,447	31,230
繰延税金資産	369,214	361,850
その他	127,001	127,006
貸倒引当金	△184,089	△181,516
投資その他の資産合計	7,340,701	7,101,617
固定資産合計	14,420,158	14,231,057
資産合計	19,911,305	18,717,479
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	3,048,537	3,065,932
短期借入金	1,207,670	274,550
1年内返済予定の長期借入金	3,871,605	1,149,870
未払金	348,646	375,247
未払費用	95,697	66,815
未払法人税等	62,497	47,274
未払消費税等	36,829	18,571
リース債務	86,599	47,075
前受金	165,110	155,804
未成工事受入金	138,421	114,516
預り金	37,096	68,960
1年内償還予定の社債	212,600	17,000
資産除去債務	51,384	－
その他	57,120	3,573
流動負債合計	9,419,817	5,405,191
固定負債		
社債	200,000	－
長期借入金	334,765	2,921,775
預り保証金	425,833	401,721
長期未払金	－	174,839
リース債務	20,049	13,947
資産除去債務	193,942	196,753
固定負債合計	1,174,590	3,709,038
負債合計	10,594,407	9,114,229

（単位：千円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期会計期間 （平成24年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,359,307	4,359,307
利益剰余金	920,025	1,194,540
自己株式	△426,512	△426,683
株主資本合計	9,257,820	9,532,163
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	59,076	71,086
評価・換算差額等合計	59,076	71,086
純資産合計	9,316,897	9,603,250
負債純資産合計	19,911,305	18,717,479

（２）四半期損益計算書
（第２四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）
売上高	12,276,867	9,667,026
売上原価	10,375,594	8,262,459
売上総利益	1,901,272	1,404,566
販売費及び一般管理費	1,057,727	1,006,796
営業利益	843,544	397,770
営業外収益		
受取利息	1,183	763
家賃収入	7,952	3,888
広告協賛金	23,042	30,087
保険返戻金	－	5,542
その他	20,403	16,736
営業外収益合計	52,581	57,017
営業外費用		
支払利息	95,889	59,436
社債発行費	3,999	－
資金調達費用	－	19,100
その他	13,991	6,117
営業外費用合計	113,881	84,653
経常利益	782,244	370,133
特別利益		
固定資産売却益	54,515	103,206
投資有価証券売却益	－	845
賞与引当金戻入額	160,966	－
その他	6,842	11,227
特別利益合計	222,324	115,279
特別損失		
固定資産売却損	32	14,508
固定資産除却損	2,959	6,690
減損損失	103,565	21,508
解約違約金	－	16,090
本社移転費用	－	5,424
その他	1,870	6,059
特別損失合計	108,428	70,281
税引前四半期純利益	896,140	415,131
法人税等	22,776	20,079
四半期純利益	873,364	395,052

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	896,140	415,131
減価償却費	1,289,657	1,123,135
のれん償却額	30,862	30,862
減損損失	103,565	21,508
賞与引当金の増減額（△は減少）	△161,416	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△4,730	△3,018
受取利息及び受取配当金	△1,852	△1,492
支払利息	95,889	59,436
固定資産売却損益（△は益）	△54,482	△88,697
固定資産除却損	2,959	6,690
売上債権の増減額（△は増加）	1,626,307	470,146
たな卸資産の増減額（△は増加）	139,091	△195,974
仕入債務の増減額（△は減少）	△1,064,860	△657,412
未払消費税等の増減額（△は減少）	49,362	△18,258
その他	64,356	261,569
小計	3,010,849	1,423,627
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	54,035	△39,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,064,885	1,384,401
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△640,100	△249,500
定期預金の払戻による収入	51,600	378,000
有形固定資産の取得による支出	△676,748	△842,550
有形固定資産の売却による収入	63,402	317,698
利息及び配当金の受取額	1,887	1,746
敷金及び保証金の回収による収入	88,216	239,414
敷金及び保証金の差入による支出	△1,188	△162,410
投資有価証券の売却による収入	－	24,609
その他	374	△55,351
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,112,553	△348,342
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	450,200	△933,120
長期借入れによる収入	－	4,139,861
長期借入金の返済による支出	△2,517,715	△4,274,586
社債の償還による支出	△196,800	△395,600
株式の発行による収入	810,000	－
自己株式の取得による支出	－	△171
利息及び配当金の支払額	△98,242	△183,327
リース債務の返済による支出	△232,599	△45,626
資金調達関連支出	－	△19,100
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,785,156	△1,711,671
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	167,174	△675,611
現金及び現金同等物の期首残高	3,577,819	2,598,571
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,744,993	1,922,960

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）セグメント情報等

Ⅰ　前第２四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

「Ⅱ　当第２四半期累計期間 ２.報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年９月30日）

１.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期損益計算書計上額(注)３
	アミューズメント施設運営事業	設計・施工事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,295,393	944,172	419,545	9,659,110	7,915	9,667,026	－	9,667,026
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	8,295,393	944,172	419,545	9,659,110	7,915	9,667,026	－	9,667,026
セグメント利益	689,358	36,234	8,536	734,129	4,884	739,014	△341,244	397,770

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

２．セグメント利益の調整額△341,244千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△341,244千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２.報告セグメントの変更等に関する事項

当第１四半期会計期間より、従来報告セグメントでありました「レンタル事業」が計画的な事業収束に向かい報告セグメントに含まない「その他」へ区分致します。これにより「アミューズメント施設運営事業」「設計・施工事業」「不動産事業」「レンタル事業」と従来４つの報告セグメントとしておりましたものを「アミューズメント施設運営事業」「設計・施工事業」「不動産事業」の３つの報告セグメントと上述の「その他」の区分とに変更致します。

なお、変更後の事業区分による前第２四半期累計期間のセグメント情報は以下のとおりです。

前第２四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期損益計算書計上額(注)３
	アミューズメント施設運営事業	設計・施工事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	9,505,088	2,310,633	440,876	12,256,598	20,268	12,276,867	－	12,276,867
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	9,505,088	2,310,633	440,876	12,256,598	20,268	12,276,867	－	12,276,867
セグメント利益	1,030,808	105,385	9,225	1,145,419	5,479	1,150,898	△307,354	843,544

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

２．セグメント利益の調整額△307,354千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△307,354千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。